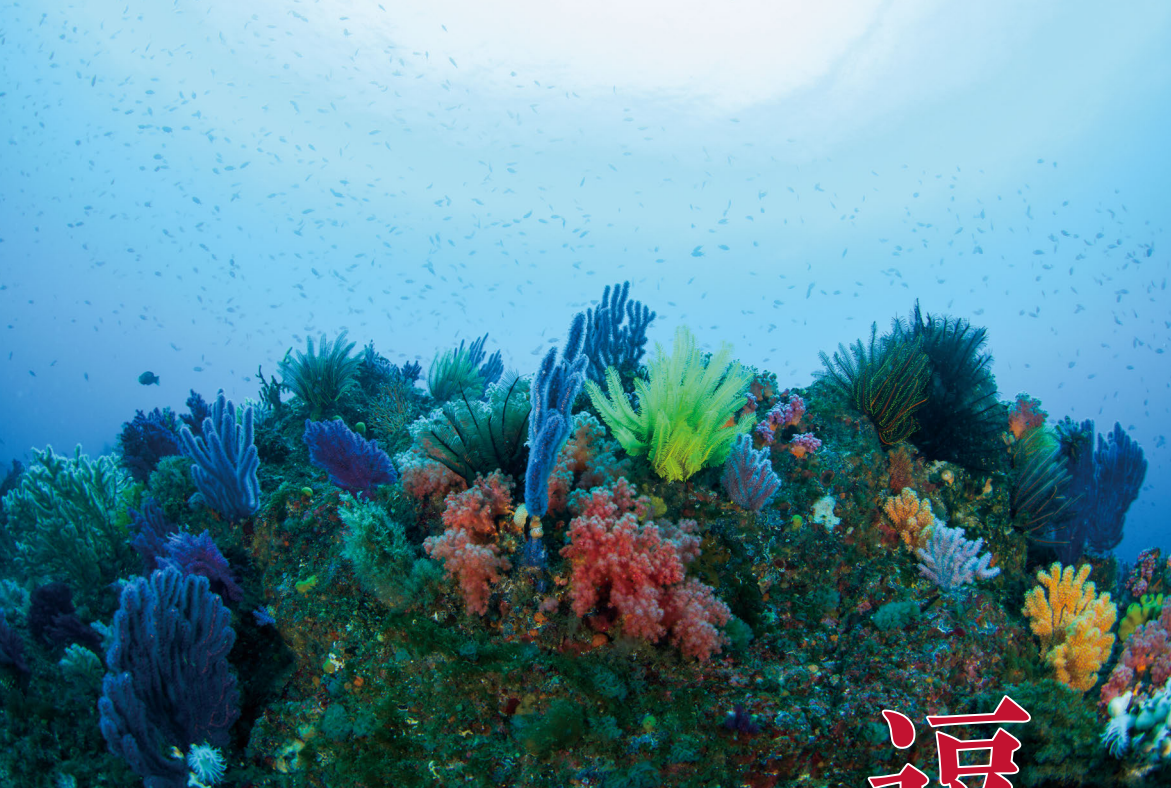




長島敏春写真展

逗子

2021/8/6-9/28

逗子を愛するが故、彼、長島敏春は、なんと写真による結界を創り上げつつある。この熱病の発端は、逗子の海中で珊瑚に魅せられ、深く追及するあまり、自然写真という綺麗に収まる範疇に飽き足らず、存在そのものの魔性を写し撮り、陸揚げしたところから始まった。本質をすくう、彼の視座、その眼を見張る海中写真も、一段落かと思ったら、こんどは、ガサゴソと裏山を徘徊だし、生い茂る草木の背後に鳥虫戯画を見つけた。逗子の天然と人との関わりを切通し、踏み分け道にしるしをつけて、歴史を闊歩しながら、写しだした。

古来、豊かな風土には人が居着いた。ここ逗子も、鎌倉に隣接し、豊かな海と、それを支える低い山地に囲まれ、海を育む森に恵まれた。そして、川が流れる。地域が環として機能する。自然が輪廻を繰り返す。写真機を独鈞のように振り回し、恰幅の良い現代の山伏は、逗子を捉えて離さず、呪文のようにシャッターを切りながら、結界を張って行く。ふつつつと、音立てながら、木立が揺れて葉が擦れ合う。小宇宙と、まなこが合った。

石井 仁志

(20世紀メディア評論・プロデューサー・ディレクター G&S根雨)

逗子

長島敏春写真展

2021年 8月6日(金) - 9月28日(火)

開廊時間: 13:00-19:00 | 休廊日: 水曜・木曜

入場無料、作品販売あり

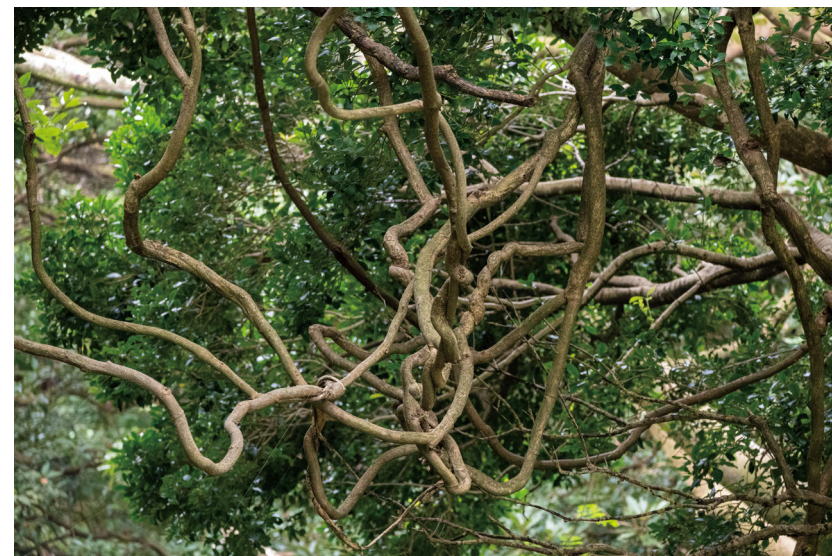


交通案内

阪急宝塚線服部天神駅
(梅田から11分)下車
徒歩1分

駐車場なし

*近隣のコインパーキング
をご利用ください



長島 敏春 (1954-)

1954年東京都に生まれる。2009年外国通信社を経てフリーランス。2009年『アサヒカメラ』に『白化するサンゴ礁』を発表。2015年逗子市に『海と森のギャラリー』を主催。逗子のサンゴの定点撮影を行う。その後、逗子で陸上の撮影を開始する。2020年に石井仁志氏のプロデュースによる水中写真展『海中』を逗子で開催する。個展も多数開催。『サンゴの海』『マングロープ生態系冒険図鑑』(偕成社)『逗子サンゴ物語』(じゃこめてい出版)

石井 仁志 (1955-)

プロデューサー・ディレクター (G&S 根雨)

細江英公、北井一夫をはじめ、多くの写真家の展示を企画運営。近現代文化史研究、中島健蔵研究、音楽、写真、映像、文学と幅広い執筆活動を展開。清里フォトアートミュージアムのヤングポートフォリオ、新潟大学地域映像アーカイブを支援協力。「生誕百年 中島健蔵展」監修(2004年 東京都写真美術館)『占領期雑誌資料大系大衆文化編』全5巻(2009年 岩波書店)編集・執筆。

トークイベント

長島敏春 × 石井仁志 (G&S根雨 プロデューサー)

「逗子、結界を創る写真家Ⅰ」8月22日(日) 15:00~16:30

「逗子、結界を創る写真家Ⅱ」9月26日(日) 15:00~16:30

参加費: 2,000円(ドリンク付)、要予約

*終了後、サイン会予定 | 作家在廊 8月21日~23日、9月25日~27日

G&S
根雨

» <https://gsneu.info>

561-0851 大阪府豊中市服部元町1-6-1-1F

Tel: 080-3122-3154 | E-mail: suibotunokiken2002@yahoo.co.jp



Follow us!

